

令和7年度

「六甲山小学校」「藍那小学校」

# 児童募集

～恵まれた自然環境の中で一緒に学びませんか？



(神戸市立六甲山小学校)



(神戸市立藍那小学校)

# 神戸市立小学校「小規模特認校」への入学者を募集します

## ◆小規模特認校の趣旨・目的

自然環境に恵まれ、特色ある教育を推進している小規模な学校（小規模特認校）に通学することにより、心身の健康増進を図り、豊かな人間性を培うとともに、複式学級の解消など学校の活性化を図ることを目的としています。

## ◆小規模特認校（令和6年4月現在）

- （1）六甲山小学校（平成14年度特認校化） 灘区六甲山町北六甲 4512-42
- （2）藍那<sup>あいな</sup>小学校（平成24年度特認校化） 北区山田町藍那字蛇谷 1-10

## ◆就学の条件 就学を希望する場合は、次の条件を全て満たしていることが必要です。

- （1）保護者及び児童がともに神戸市内に居住していること。
- （2）通学する小規模特認校の教育活動に賛同し、協力すること。
- （3）保護者の責任と負担において、児童が原則として公共交通機関を利用し、自力でおおむね1時間以内で通学できること。
- （4）原則として卒業までの間、通学すること。

## ◆就学の時期 毎年4月

## ◆就学の申請手続き

六甲山小学校・藍那小学校への就学を希望する保護者は、定められた期間内に学校見学を行い、学校長との面談及び申請書の提出を行ってください。

学校長による面談及び申請書から、就学の条件を満たしていることが確認できたら、お住まいの区役所から保護者あてに、各校への「就学通知書」が発行されます。

※申請後に就学の条件を満たしていないことがわかった場合、就学の許可を取消すことがあります。

## ◆公開抽選

就学条件を満たす方が学年ごとの受け入れ人数を超えた場合には、公開抽選を行います。



ボルダリングウォール  
（六甲山小学校）



里山ハイキング  
（藍那小学校）



## 令和7年度入学に向けた募集スケジュール

### ◆令和7年度受け入れ人数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
六甲山小学校	8名程度	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
<small>あいな</small> 藍那小学校	10名程度	6名程度	5名程度	募集なし	若干名	若干名

※学校行事等の都合により、スケジュール等を変更する場合があります。

最新情報は、神戸市公式ホームページ「小規模特認校」に随時更新いたしますのでご確認ください。

### ◆学校説明会

六甲山小学校 令和6年7月26日(金) 13:45～受付 14:00～説明会

あいな  
藍那小学校 令和6年6月22日(土) 8:45～受付 9:00～説明会

※説明会当日は、お子様の通学路の確認を兼ねて、公共交通機関を利用してお越しください。

※説明会当日は、お子様をお連れしていただいて構いません。

#### 【学校説明会へのエントリー方法】

神戸市公式ホームページの申請フォームからエントリーしてください。

神戸市 小規模特認校

検索

または、右のQRコードから。



エントリーメ切：六甲山小学校：令和6年7月19日(金) 16:00まで

藍那小学校：令和6年6月14日(金) 16:00まで

◆学校長との面談 学校説明会において、面談の時期や申し込み方法について説明します。

◆申請書の受付 学校長との面接を経た後に受付期間をお知らせいたします。

### ◆入学者の決定

令和6年12月頃(予定)

※申請者が募集人数を上回った場合は、抽選により入学者を決定します。

※申請者が募集人数に満たない場合は、2次募集を行いますので神戸市公式ホームページを確認ください。

# 令和7年度 新入学生 募集中

## 神戸市立 六甲山小学校

神戸市灘区六甲山町北六甲 4512-42  
電話 (078) 891-0328

### 自然豊かな六甲山で学びませんか

六甲山小学校では、六甲山のフィールドを活かして、少人数での教科学習や学校行事に取り組んでいます。

#### ◆◆◆ 主な学校行事 (例) ◆◆◆

- 春 全校キャンプ ツゲ池魚とり カヌー体験
  - 夏 ビジターセンターとの環境体験学習
  - 秋 運動会 火入れ式 全山縦走 音楽会
  - 冬 走ろう会(神戸ゴルフ倶楽部) スキー教室
  - 年間 六甲山近隣施設での学習 青空たんけん
- ※行事内容は、変更する可能性があります。



六甲山小学校の  
ホームページはこちらから



全山縦走

## 神戸市立 あいな 藍那小学校

神戸市北区山田町藍那字蛇谷 1-10  
電話 (078) 591-0367

### 市街地から近い里山で学びませんか

藍那小学校は、創立151年の長い伝統を引き継ぎ、自然に恵まれた環境の中で地域と共に少人数による教育活動をしています。

#### ◆◆◆ 主な学校行事 (例) ◆◆◆

- 春 田植え(地域田) 里山散策 運動会
  - 夏 うどんまつり(地域) 全校デイキャンプ
  - 秋 稲刈り 里山ハイキング 焼き芋大会 学芸会
  - 冬 左義長 わら細工の会 もちつき大会
  - 年間 あいな陸上 稲作(学校田) 野菜づくり(学校畑)
- ※年間行事は、変更する可能性があります。



藍那小学校の  
ホームページはこちらから



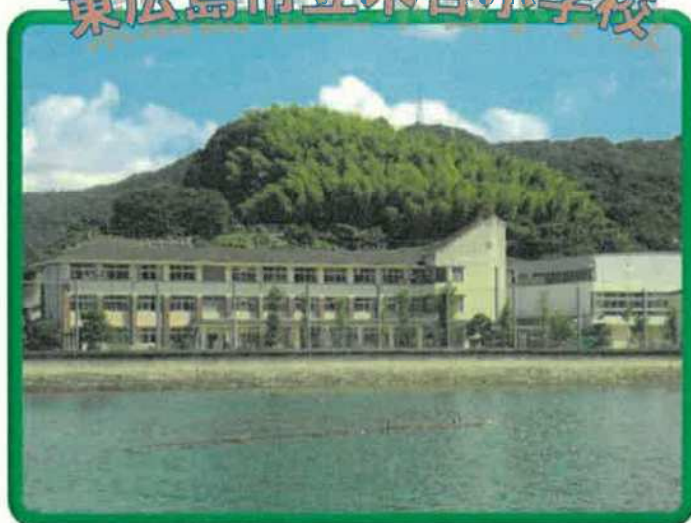
稲刈り

# 小規模特認校制度

東広島市立吉川小学校



東広島市立木谷小学校



いっしょに学ぼう。

いっしょに遊ぼう。

新しい出会いがまっています。

東広島市教育委員会



## 東広島市立吉川小学校

〒739-0152 東広島市八本松町吉川 365  
TEL 082-429-1054 FAX 082-420-9302

### 豊かな体験・豊かな学びで子供が変わる

～地域まるごと学びのステージとしてホンモノを体験できる学校～  
～少人数の良さを生かした手厚い指導とふるさと学習ができる学校～

#### ○自分を創る

人としての基礎・基本を育てます  
(チャレンジタイム, 吉川スタンダード7)  
健康で元気な体を育てます  
(ドキドキタイム, 食育の充実, ロング昼休憩)  
優しい心, つながる心を育てます  
(なかよし班活動, 児童会活動, 保小連携)



チャレンジタイム



ロング昼休憩



春みつけ  
(吉川保育所と)

#### ○地域を創る

地域や伝統から学ぶ力を育てます  
(ふるさと学習, 吉川太鼓の継承)  
地域とつながる力を育てます  
(長寿会, なんじゃもんじゃの会, 農事組合法人 他)  
地域に感謝する心を育てます  
(ふるさとありがとう集会, 地域行事への参加)



山と親しむ会  
(薪割り体験)

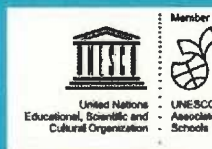


田植え体験



#### ○未来を創る

平和や国際的な連携を実践する人材を育てます  
(ユネスコスクール・キャンディート認定校)  
持続可能な社会の担い手を育てます  
(SDGs・ESDの視点を取り入れた学習)  
ICTや思考ツールを活用した個別最適な学びと  
協働的な学びを行います



総合的な学習の時間  
(SDGs)



ICTを活用した  
授業

## 東広島市立木谷小学校

〒739-2401 東広島市安芸津町木谷 4122  
TEL 0846-45-0275 FAX 082-438-0925

### 夢と感動あふれる教育活動

#### 海・山・豊かな自然・豊かな体験活動

##### 木谷特産 ジャガイモ学習

赤土のひみつを  
探る。  
ジャガイモ植え  
付けから収穫



##### 海のめぐみ かき学習

##### かきの産付け見学 かきうち体験



##### 幻の島 ホボロ島現地調査



##### 木谷太鼓本鼓

伝統の太鼓を先輩から引  
き継いでいます。地域の行事  
や学習発表会等で演奏を披露  
します。



#### 地域と共に歩む教育活動

##### 教育講演会(ようこそ先輩) ふるさとへの思い

木谷小学校を卒業され  
た大先輩の講演を聞いて  
「夢や志」「地域への  
誇りが甦っています」  
講演の内容紹介



・ようこそ 岡本雄子先生  
・木谷の歴史と古代のロマン  
・木谷から世界へ ぬぎせクロノバル人財  
・いのちといのちがつながって

##### ふるさと学習

わくわく木谷



##### 一人一プランター

ふれあい集会



##### 木谷地域合同防災訓練

津波発生を想定して地域住民・保護者と共に山へ避難



防災講演会・消防訓練・炊き出し試食

##### 地域合同自然観察会・地域センターでの放課後学習



ほたる観察会 アカテガニ観察会 シロウオ観察会

#### 図書館を活用した教育活動 少人数指導の充実・確かな学び

いつでも、どこでも読書・読書大好き  
～学校まるごとライブラリー～



学級文庫100冊以上 ホップブクリ

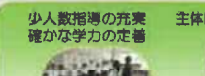
##### 読書ボランティア「ほたるの会」読書開き

「絵巻物語」「ホボロ島物語」など、地域を素材にした  
オリジナル作品の上演やブ  
ックトーク、毎月の「読み語り」  
により読書が盛んになっていま  
す。



##### お話の丘委員会の読み聞かせ

「主体的に」読む活動が広がります。



##### 少人数指導の充実 確かな学力の定着

主体的に学ぶ力を育成



全校なかよし班掃除





# [石川県] 珠洲市立宝立小中学校（義務教育学校）

## 1. 学校（区）概要

- 教育目標：ふるさと宝立の自然や人に学び、たくましく生き抜く子の育成
- 所在地：珠洲市宝立町鶴飼丑部83番地
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数（R3.5.1時点）



	小学校								中学校					小・中 計
学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	4	15	3	14	7	5	2	50	10	7	4	0	21	71
学級数	1	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	0	3	9

## 2. 導入経緯

【検討開始のきっかけ】

人口減少社会における学校教育の在り方を検討する中で、豊かな人間性と自立心をもった児童生徒を育成するためには、地域に根差し開かれた学校づくりを推進するとともに、小・中が緊密に連携し、義務教育9年間を見通した一貫性のある教育を行う必要があるとの結論に至ったこと。

【具体的な経緯】

- ・平成20年8月 「珠洲市における学校統合問題（今後の望ましい教育環境）」答申
- ・平成20年10月 宝立地区学校統合問題に係る説明会・意見交換会（平成21年5月まで 計5回開催）
- ・平成21年8月 宝立小中学校一貫教育検討委員会（平成22年7月まで 計3回開催）
- ・平成21年12月 珠洲市小中一貫教育協議会（平成22年7月まで 計6回開催）
- ・平成24年4月 小中一貫校として珠洲市立宝立小中学校 開校
- ・平成28年4月 義務教育学校として珠洲市立宝立小中学校 開校

## 3. 小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- ふるさと珠洲を愛し、思いやりの心をもって、地域の未来、そして日本の未来に活躍できる人間力をそなえた児童生徒を育成する。
- 義務教育9年間を児童生徒の発達段階を踏まえ、指導の連続性を確保した継続的な指導を行うことで児童生徒の個性の伸長を図る。

### 施設活用

- 施設一体型（小学校棟を中学校棟に増設、7年教室は小学校棟に設置）
- 小学校棟（1年～4年は1階フロアで隣接、5年～7年は2階フロアで隣接）
- 中学校棟（8年・9年は3階フロアで隣接）

### 教職員体制

- 校長：1名配置
- 教職員：兼務発令なし  
小学校教員 中免許状保有者数（国1・社1・数2・理1・英1）  
中学校教員 小免許状保有者数（1名 ※免許状教科で前期課程の教科担当可）（R3.4現在）

小学校棟	中学校棟
第1年～第7年	第8年・第9年
児童生徒約60人	生徒約11人
教職員約10人	教職員約11人

### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：きらり英語科（1・2年生の国際理解教育としての英語授業10時間）
- 区切り：4-3-2制
- 学校行事等：4-3-2制の各ブロックによる集会活動、ブロックで行う「ふるさと珠洲科」の学習発表会

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：一部教科担任制  
（小学校の6年社会・理科・図工・家庭・体育、5年図工・体育、4年音楽・図工、2年図工・体育）
- 教員の相互乗り入れ：中学校教員が上記の一部教科担任制の教科に乗り入れ

### 児童生徒の異学年交流の工夫

- 4-3-2制の各ブロックによる集会活動、縦割り班による運動会・文化祭、縦割り遊び集会、ブロック遠足

### 市町村教育委員会等による支援

- 教職員の加配配置

### その他

- ふるさと珠洲科（総合的な学習の時間）の学習における地域・関係機関の協力体制

## テーマ：小学校と中学校の教員の相互乗り入れによるすべての児童生徒とかかわりあう学習環境

小規模校においては、様々な価値観に出会うことや多様な教職員から指導を受けることが限られたり、人間関係が固定化したりするなどの課題が挙げられることが多い。しかし、反面、異学年の交流を図りやすく、一人一人の児童生徒にきめ細かい指導がしやすいという利点もある。本校では、小規模校の利点と義務教育学校として小中教員の相互乗り入れ授業等の学習環境を工夫することを通して学力向上や社会性・人間関係の育成に取り組んでいる。

### ●一部教科担任制としての乗り入れ

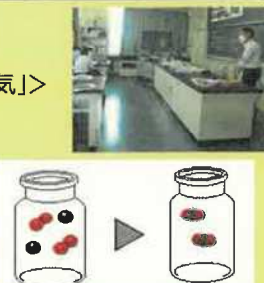
- ・後期課程（中学校）の教員が担当教科の乗り入れ授業を行うことで発展的な指導や専門的な視点での指導を行うことができる。
- ・今年度は、後期課程（中学校）の社会、理科、家庭、美術、音楽、体育の教員が下表の前期課程（小学校）の学年に乗り入れを行っている。

学年	2年	4年	5年	6年
教科	図工 体育	音楽 図工	図工 体育	社会・理科 図工・家庭・体育

#### 【専門的な視点での指導例】

<6年理科「物の燃え方と空気」>

酸素が減り二酸化炭素が増える現象を分子モデルを使って説明することで児童に酸素が減ることの具体的なイメージをもたせることができた。



### ●学力に課題がある生徒へのきめ細かな指導としての乗り入れ

- ・学力に課題がある生徒に生徒の学力や課題を把握している前期課程（小学校）の教員がT2として支援にあたることで、生徒の課題に対応したきめ細かな指導をすることができる。
- ・T2はT1と協力しながら課題解決のヒントの提示、発表の仕方の示唆、ノートの書き方の指導等を行う。

教科	教員	分担
数学	後期課程（中学校）教員	T 1（教科指導）
	前期課程（小学校）教員	T 2（生徒支援）

#### 【数学の授業でのTT】



### ●多様な教員や価値観との出会いとしての道徳の乗り入れ

- ・乗り入れ道徳をすることで、様々な価値観に出会うことや多様な教職員の指導を受けることができるようになる。
- ・全職員が全校児童生徒と授業で関わることで児童生徒理解を深めることにつながっている。
- ・学校全体で児童生徒を育成する教職員の意識や9年間を見通して一貫した指導をしようとする意識の向上につながっている。

	1年 担任	2年 担任	9年 担任	9年 副担
担当 学年	4年 7年	5・6年 9年	2年 7年	3年 9年



### これまでの成果と課題、今後の取組

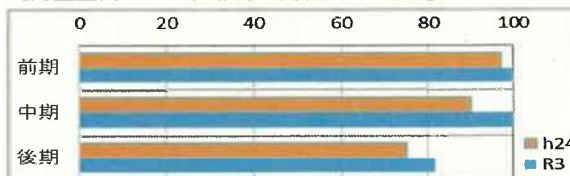
小規模校と義務教育学校の利点を生かすことで、次のような成果がみられる。

- ・多面的・多角的な思考につながる学習環境の向上
- ・学習環境の向上による学習意欲や内容理解の向上
- ・学校全体で社会性や人間関係をそだてようとする教職員の一体感の向上

今後、以下の課題については引き続き改善を図るよう取り組んでいく必要がある。

- ・前期課程と後期課程の指導の連続性を図るための指導の一貫性の確立（「意識する・つかむ」「考える」「深める」「まとめる・生かす」の4つの学習過程の共通実践と育てたい力を付ける指導法の充実を図る研究体制の確立）
- ・小規模校の中においても切磋琢磨する環境の創出

#### 【児童生徒アンケート「授業の内容がよくわかる」】



#### 【全校（小中合同）研究授業整理会】





# [長野県] 信濃町立信濃小中学校（義務教育学校）

## 1. 学校（区）概要

- 教育目標：【自主】自ら求めて学ぶ児童生徒 【友愛】命と仲間を大切にする児童生徒  
【克己】最後までやり抜く児童生徒 【躍進】自分自身をみつめ豊かに生きる児童生徒
- 所在地：長野県上水内郡信濃町大字古間490
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数（R3.5.1時点）



	小学校								中学校					小・中計
学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	43	37	40	54	43	56	12	285	53	54	67	15	189	474
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	2	2	3	3	10	24

## 2. 導入経緯

【検討開始のきっかけ】

児童生徒数の減少と施設の老朽化

【具体的な経緯】

- ・平成16年度 信濃町立小学校適正配置検討委員会設置
- ・平成19年度 教育環境検討委員会設置
- ・平成24年度 5つの小学校と1つの中学校を統廃合し信濃小中学校開校
- ・平成28年度 義務教育学校に移行

## 3. 小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- 基本理念「信濃町に誇りをもち、次代を担う人材の育成」～学びに向かう力と温かな人間性の涵養～
- ・初等部では豊かな自然の中で、体験活動を通して、基本的な学習習慣や人間関係力を培う。
- ・高等部前期では教科担任制で専門的な学びを通して、教科の本質に触れながら主体的な追求力を培う。
- ・高等部後期では自らの生き方を見つめ、夢の実現に向けて進路を切り拓く力を培う。

### 教職員体制

- 校長：1名 副校長：1名 教頭：1名
- 教職員：66名

### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：なし
- 区切り：4－5制
- 学校行事等：初等部修了式（4学年）、前期課程修了式（6学年）、立志式（8学年）、秋桜祭

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：第5学年から、算数、理科、音楽、図工、家庭科、体育において実施  
令和3年度から第3学年からの音楽、図工、体育においても実施

### 児童生徒の異学年交流の工夫

- 運動会、文化祭の1～9年生合同実施

### 市町村教育委員会等による支援

- 小中一貫教育 町費講師の配置、学習支援員、リソース等指導員の配置

### その他

- 学校運営協議会の設置
- しなの学校応援団（地域住民の方が特技などで外部講師となり学校に協力）

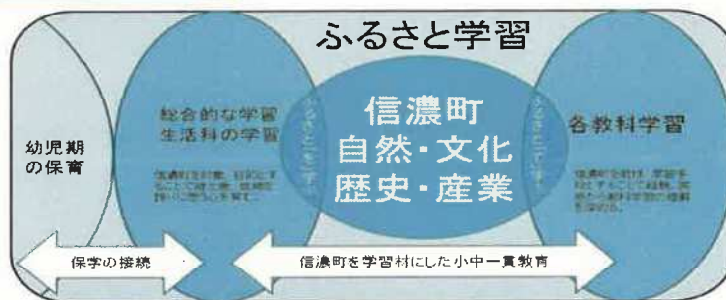
## テーマ：小中一貫した教育課程「ふるさと学習」

### ふるさと学習のねらいと具体的な取り組み

#### なぜ小中一貫の教育課程で「ふるさと学習」を位置づけたか

信濃小中学校は、5つの小学校と1つの中学校の統廃合により、町唯一の学校として新たに開校した。小中一貫9年間で取り組む信濃町を学習教材とした「ふるさと学習」を通して、信濃町の児童生徒としてのアイデンティティを育み、生まれ育った故郷への感謝と誇りを持ち、主体的に自らの地域を考えることができる、次代を担う人材を育成する。

また、講師となる地域住民と積極的に関わりを持ち、地域に開かれた学校づくりを進めることで、地域との協働関係を強化し、地域で子どもを育み、支援する体制をつくっている。



#### 学校教育目標の実現

信濃町に誇りを持ち、次代を担う人材の育成

～学びに向かう力と温かな人間性の涵養～

#### 具体的に「ふるさと学習」で何をしているか

- 江戸時代に活躍した俳人小林一茶の生誕地であることから、幼児期から「一茶かるた」に親しみ、この具体的体験を、学校教育と結びつけるために、信濃小中学校入学後は、一茶記念館の学芸員の協力を得ながら、遊びの中で親しんできた一茶の俳句を基礎にして、2年生と7年生の国語で俳句について学んでいる。
- 初等部（1～4年）では、生活科、総合的な学習の時間の中で、地域住民の協力を得ながら地域巡りや野尻湖クリーンラリー、米作りなどをおこない、自分の周りに学ぶべきものがたくさんあることを認識させることで、身の回りへの知的好奇心を高めている。
- 高等部（5～9年）では、自ら問いを設定し、試行錯誤を繰り返しながら、友だちや地域の人々と対話し、一人一人が自ら答えを導いていく課題解決学習を特に大切にしている。例として、令和3年度の7年生は、信濃町のおいしい水に興味をもち、町の水道係を訪ねた。そこで冬期にかなりの漏水があることを知り、町の水道係と連携しながら、水道のキャラクターをつくって住民に告知することで、町の漏水問題を解決しようと学習を進めた。9年生になるとふるさと学習のまとめとして、研究成果を町へ提言するなど、学校内にとどまらない、広がりや深みのある学習をおこなっている。



#### これまでの成果と課題、今後の取組

- 信濃町の恵まれた自然や歴史文化を題材化し、小中一貫教育を通じた新たな学びを創造できている。
- ふるさと学習を通して、信濃町を好きな子どもが増えている。また、知的好奇心の高まりや学び合いにより自分の考えの広がりがみられる。
- 過去の実践をアーカイブ化し、また総合的な学習の時間（ふるさと学習）の目標（願う姿）について、教職員間で共通理解を図り、学校全体の横断的・系統的な取り組みとして深化させたい。
- 講師となる地域の方（しなの学校応援団）と校内コーディネーターを中心とした地域連携の仕組みを構築する。
- 校外学習が計画的に実施できるよう、日課と学校行事などの見直しを図る。





# [京都府] 京丹後市立久美浜中学校区 (併設型)

京丹後市立久美浜中学校  
京丹後市立久美浜小学校  
京丹後市立高龍小学校  
京丹後市立かぶと山小学校

## 1. 学校 (区) 概要

- 教育目標：ふるさとを愛し 意欲的に学び やさしい心もち 根気強く努力する子どもの育成
- 所在地：京丹後市立久美浜中学校 京丹後市久美浜町640  
京丹後市立久美浜小学校 京丹後市久美浜町3369  
京丹後市立高龍小学校 京丹後市久美浜町新谷250  
京丹後市立かぶと山小学校 京丹後市久美浜町神崎1603
- 施設形態：3小学校、1中学校による施設分離型小中一貫教育
- 児童生徒数 (R3.5.1時点)



学年	小学校 (3小学校の合計)								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	61	61	73	70	55	71	15	406	67	63	67	11	208	614
学級数	3	3	4	3	3	3	6	25	2	2	2	3	9	34

## 2. 導入経緯

- ・平成22年12月 小中一貫教育研究をスタート
- ・平成24年度 指定したモデル学園 (峰山・網野) で研究
- ・平成26年度 峰山・網野中学校区で本格実施
- ・平成27年度 実施校が3校区となる (大宮中学校区)
- ・平成28年度 久美浜学園を含む市内全学園で一貫教育を実施

### 【検討開始のきっかけ】

- 中1ギャップや小1プロブレム、子どもたちの発達の加速傾向といった課題と今後変化の激しい社会で必要とされる力の育成のためには、校種間の接続を一層改善し、より連続性・一貫性のある教育が重要

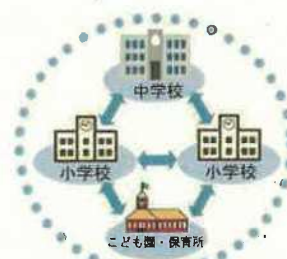
## 3. 小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- 京丹後市の「目指す子ども像」である「将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶことのできる子ども」を育てるため、「就学前から中学校卒業までの10年間にわたる一貫した子育て支援と教育」の実現により、子どもたちに今以上の「生きる力」を育成することを目的に、市内全域において保幼小中一貫教育を展開。

### 施設活用 (施設隣接・施設分離型の場合)

- 久美浜学園は施設分離型。面積144.95km<sup>2</sup>、人口9,591名 (H30現) の京丹後市久美浜町内に7つの園所・小中学校が点在しており、徒歩・自転車の他、20台を超えるスクールバスや路線バスを利用し多くの幼児児童生徒が通学している。
- 年間を通じて交流行事、合同行事を定期的実施するとともに、ICTを活用した児童・生徒によるオンライン会議も行っている。



既存の校舎のままで、中学校区の教職員が積極的に連携し、一体的な指導を実施

### 教職員体制

- 学園全体の経営を行う組織機能として、「保幼小中一貫教育校経営会議」を位置づけ、その代表となる校園所長を中学校長が兼任している。
- 一部の教職員が兼務発令され、乗り入れ指導等を実施している。



### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 制度上は6-3制をとっているものの、指導上は、Ⅰ期 (基礎期) 小学校1年~4年 / Ⅱ期 (充実期) 小学校5年~中学校1年 / Ⅲ期 (発展期) 中学校2・3年の3つの指導区分で推進。

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ指導

- R3年度小学校においては第5・6学年の社会・理科・外国語で実施、小・中学校在籍の教員が各小学校で指導している。

### 児童生徒の異学年交流の工夫

- 合唱祭参加や部活動体験、児童会生徒会協働のSDGsの取組など。

### 市町村教育委員会等による支援

- 各学園に学園コーディネーター、地域コーディネーターを複数配置し、各会議の事務局や広報、学校支援ボランティアの募集や配置などを担当。また、就学前から義務教育期間を通した計画的かつ系統的な教育を行うための調査、研究及び協議を行うため、京丹後市保幼小中一貫教育研究推進協議会を設置している。

## テーマ：小学校における教科担任制の実施

本市の進める小中一貫教育は、現行制度（義務教育6・3制）のもと、「目標の共有、目標実現のための各学校における取組み」、「目標の実現状況の評価による結びつき」によって着実に「目指す子ども像」を実現していく施設分離型である。具体的には、中学校の学習にスムーズに接続するとともに、専門性を持った中学校の教員が小学校で指導することにより、学習意欲を高め確かな学力を確保させる、「小学校高学年における教科担任制」による小中連携、中学校区の規模の異なる3つの小学校の学習を共通したカリキュラムで進めることにより、中学校入学時のスタートラインを揃える小中連携という取組を行っている。そのために、文部科学省小学校高学年教科担任制研究に係る加配教員、小中連携加配や小中連携加配、京都市少人数教育に係る加配教員の配置などを活用し、より質の高い教育の推進を目指している。

### ● 久美浜学園における教科担任制の概要

#### 【指導時数・指導教科等(令和3年度)】

- ◆ 小学校5・6年社会科の指導（小学校高学年教科担任制研究専科教員・小学校籍）
- ◆ 小学校5・6年理科の指導（小学校高学年教科担任制研究専科教員・中学校籍）
- ◆ 小学校5・6年外国語の指導（京都市少人数教育に係る加配教員及びALT・中学校籍）
- ◆ 小学校3・4年外国語活動の指導（京都市少人数教育に係る少人数教育加配教員及びALT・中学校籍）

#### 【教科担任制導入によるメリット】

- ◆ 小学校の学級担任制から中学校の教科担任制へ緩やかに移行し、中学校の学習にスムーズに接続することができている。
- ◆ 各教員の専門性や授業力を生かし合うことで、児童の学習意欲や学力が向上したとともに、担任の負担軽減にもなり、働き方改革にも繋がっている。
- ◆ 小学校高学年の時期に、複数の教員の目で児童を捉え多面的に関わることで、一人一人の児童理解を深め、きめ細かな指導に生かすことができている。

### ● 小中一貫を活かした「学びを深める」ための仕組みづくり

- ◆ 高学年の「理科」「社会科」の学習活動に沿った「総合的な学習の時間」における特設のカリキュラムによる「丹後学」

【山陰海岸ジオパーク「大地の学習」(小6) 京丹後市の歴史(中1)】

- ◆ 外国語に早期より親しみをもちたせるとともに、中学校入学時までの同一指導内容による語学力の習得

【京丹後市中学生海外派遣事業への積極的な参加】

- ◆ 保幼小間、小小間、小中間の指導の一貫性を追求する指導区分ごとの連携会議の定期的開催
- ◆ 保幼小中の教員による学園全体研修会、授業研究会の実施
- ◆ 中学校入学時のギャップを解消するための、生徒指導・教育相談・特別支援教育分野での指導観の統一と情報共有



### これまでの成果と課題、今後の取組み

- 子どもたちの感想
  - 社会の授業がとてもわかりやすく、専門知識が広がって大変よかった。
  - 理科はたくさん実験ができ、とても楽しく学習に取り組むことができた。
- 久美浜学園内で、「育てたい姿」、「共通指導項目」等を学園全教員で確認して教育活動を展開できた。
- 「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という生徒指導の三機能を生かしたきめ細かな指導を充実させていくためにも、複数教員の指導により学級をより開かれたものにし、組織的な対応を推進させる。



GIGAスクール構想によるタブレット導入以前に学園で先行研究を蓄積。その結果、導入時には学園内の全ての児童生徒が一定のリテラシーを獲得した状態で全ての教科における学習が可能となった。



# [高知県] 高知市立義務教育学校 土佐山学舎（義務教育学校）

## 1. 学校（区）概要

- 教育目標：ふるさとに誇りをもち 将来をたくましく豊かに勇気をもって生き抜く児童生徒の育成
- 所在地：高知県高知市土佐山桑尾13
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数（R3.5.1時点）



学年	前期課程								後期課程					総計
	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	15	16	15	18	18	16	2	100	17	10	13	3	43	143
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	1	1	1	1	4	12

## 2. 導入経緯

### 【検討開始のきっかけ】

急激な少子高齢化を受け、平成22年に保護者や地域住民から土佐山地域に学校を残し、小規模校の強みを活かした社会教育と学校教育を地域とともに一体的に推進する「社会学体教育」を実現するための「小中一貫校」の整備に係る要望が出され、平成23年3月に、高知市が提案した「土佐山百年構想」の中に、「社会学体・小中一貫教育プロジェクト」が一つの柱として明記された。

### 【具体的な経緯】

- ・平成25年度 高知市の施策として、土佐山小・土佐山中の統合整備事業が開始
- ・平成27年度 小中一貫教育校「土佐山学舎」開校
- ・平成28年度 小中一貫教育を制度化する法改正を受けて、「高知市立義務教育学校土佐山学舎」となる

## 3. 小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- 土佐山小・土佐山中時代の小規模校・少人数を強みとして継承し個に応じた指導の充実を図る。ブロック毎の学習や異学年交流を通じて、9年間の系統性・継続性を重視したカリキュラムに基づいた教育活動を進める。また、土佐山地域で培われてきた「社会学体」の理念に基づいた、学校・家庭・地域が協働しての学校づくりや児童生徒への支援に努める。

### 教職員体制

- 校長：1名配置、教頭：2名配置（前期課程担当、後期課程担当）

### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：なし
- 区切り：4－3－2のブロック制（とさやま「志」メソッド）

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：
  - 第3学年（体育）、第4・5学年（音楽、体育）
  - 第6学年（理科、音楽、体育）
- 教員の相互乗り入れ：
  - 後期課程の教員が前期課程の授業にTTとして乗り入れ（3年算数、6年算数、5年図工、5・6年外国語・総合）
  - 第7学年の数学及び英語に、前期課程の教員がTTとして乗り入れ

### 児童生徒の異学年交流の工夫

- 外国語の授業での異学年交流（6年生と9年生）
- 英語活動、掃除、地域行事の完全縦割り

### 市町村教育委員会等による支援

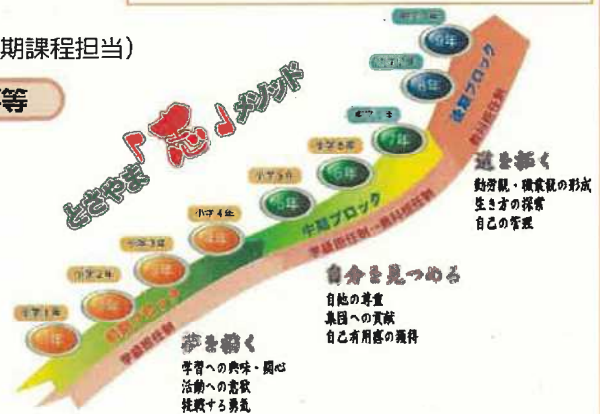
- 義務教育学校としての加配教員の配置
- スクールサポートスタッフの配置
- 研究推進に対する指導・助言

### その他

- 後期課程は全生徒が部活動に入部（バドミントン部もしくは英語部）
- 学校運営協議会及び地域学校協働本部の設置
- 小規模特認校制度による、校区外児童生徒の受け入れ

### 教育方針

- 9年間を見通した系統的・継続的な学習指導
- 9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導
- 9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動
- 異学年交流・地域社会との交流
- 個に応じた指導・支援の充実
- 学校・家庭・地域社会が一体となった教育環境づくり



# テーマ：9年間で夢と志を育むことを通じた学校を拠点とした「地域の活性化」

## 取組の工夫

## 9年間の学びのストーリーを描くことで系統的に学習を進める 土佐山学単元一覧表（R3）

本校では、1・2年生の「生活科の地域の自然や人に関わる学習」、3～9年生の「総合的な学習の時間」を「土佐山学」と呼んでいる。地域の豊かな資源・人材に関わる活動を学習の中心に据え、1年生から9年生まで、9年間の学びのストーリーを描くことで系統的に学習を進めている。1～4年生では、土佐山のよさを発見したり楽しい体験をしたりする。5～7年生では、地域の抱える課題を見つけ、課題解決の方法を考え地域に提案する。そして、8・9年生は、土佐山学の集大成として地域活性化につながる「土佐山貢献プロジェクト」へ挑戦することになる。これは、7年間かけてこれまで学んできた土佐山のよさも課題も全て熟知しているからこそできる貢献となる。

テーマの変更はないが、学習内容は、学習の振り返りをするなかで出てきた新たな課題を解決するために、探究的に翌年も継続して取り組んだり、新たな学習内容に切り替えたりするなどしている。

また、4年生の川の学習に関連して、社会科のまちづくりや水に関する単元では地域の浄水場に赴いて水の学習を行うほか、地域を流れている鏡川で水生生物の観察をして理科の学習につなげ、さらには図工での表現に関する学びを生かしたプレゼン資料で発表を行う等、各教科と土佐山学の学習を横断的に進めていくようにしており、カリキュラム・マネジメントを効果的に機能させている。

コミュニケーション能力の育成を軸に、地域理解及びキャリア教育の深化をめざす

学年	テーマ	学年毎の学習内容
1年生	土佐山に親しむ	土佐山の自然に親しもう（25時間）
2年生		土佐山の名人に会ってみよう（23時間）
3年生	土佐山を知る	土佐山の魅力を紹介しよう（20時間） ～土佐山の自然を生かして、土佐山の魅力に活かされている人たちの思いや伝えよう～
4年生		ふるさとの山や水を生かそう（20時間） ～大ひなまつりを学び、未来につなげる実践しよう～（70時間）
5年生	土佐山を見つめる	つながろう！土佐山の魅力 ～山の恵み再発見～（70時間）
6年生		ひろげよう！土佐山の魅力 ～土佐山の恵みの力～（70時間）
7年生		案内しよう！自慢の土佐山 ～土佐山の魅力を最大限に生かした商品で祭りを盛り上げよう～（50時間）
8年生	土佐山に貢献する	地域活性化プロジェクト（70時間） ～土佐山の自然を追究し、PRしよう～
9年生		地域貢献プロジェクト（70時間） ～自分たちのふるさとに貢献しよう～

## 具体的な取組

### 1 卵かけご飯にかけるオリジナルのタレづくり（令和3年度 5年生）

土佐山にある地元特産品の販売所「BAL土佐山」では、土佐ジローの卵を使った卵かけご飯が人気である。この自慢のメニューをさらにおいしくするために、5年生が卵かけご飯にかけるタレの開発に挑戦！

専門学校の先生監修のもと、土佐山の特産品を使ったタレをいくつか考案し、実際に試食していただき、一番人気を決定。今後、そのタレを販売してもらえよう、地域の企業に交渉する計画をしている。



### 2 ゆず祭りの開催（平成30年度 9年生）

土佐山地域の特産品であるゆずをアピールするため、地域に向けて、ゆず祭りの開催を提案。祭りの企画や運営はもちろん、ゆずを使った食品開発をしたり、企業からの支援をいただくために、いくつかの企業に出向き、祭りの企画に関するプレゼンを行い、支援を受けることができた。さらに、高知県知事や高知市長に、直接交渉・依頼し、当日の出席について約束をもらうことができた。平成30年度に、高知市中心市街地にある「ひろめ市場」で開催し、大盛況であった。ゆず祭りは令和3年度で4回目を迎える。



### 3 土佐山ツアー（令和元年度 9年生）

土佐山地域への交流人口を増やすため、地域内を巡る観光ツアーを企画・立案し、実際に旅行会社に商品として一般の方へ販売してもらった。ゆずの収穫体験から地域の食材を利用した昼食や買い物など、土佐山学を学んできた9年生だからこそ土佐山色満載のツアーが完成！当日は、23名のお客さんに土佐山をたっぷり味わっていただき、最後は涙のツアーになった。令和3年度は、外国人を対象にしたツアーを開催し、英語を使っている地域の案内や日本文化の説明などを行った。



## これまでの成果と課題、今後の取組

本校は平成27年に開校し、令和3年度で7年目を迎える。開校前は57名であった児童生徒数は、小規模特認校制度を利用して入学してくる児童生徒が年々増加し、令和3年度は143名になった。開校当時は2・3年生と5・6年生が複式学級だったが、現在では1年生しか区域外からの入学募集をしておらず、応募多数のため、毎年抽選が行われている。地域の方々からは、「子どもたちの人数が増えたことで元気がもらえる。私ももっと頑張らなきゃ」という気持ちになるという声を聞く。

本校への入学希望の理由は、土佐山学と英語教育を挙げる家庭が多い。土佐山学は、単なるふるさと学習ではなく、地域を教材に学習するなかで、将来のキャリア形成に生かせる資質・能力を身に付けることを目標とし、特にコミュニケーション能力の育成を行う。そのため、本校では、英語教育においても実践的な場面で使える英語力を身に付けること（英語検定2級合格）が最終ゴールとなっており、毎年合格者が出ている。

祭りやツアーの企画以外にも、地域のCM動画を作ったり、「かなば」（かんなくず）のコサージュで土佐山の木を世界へ発信しようしたり、模擬株式会社を作って地域限定の商品を開発するなど、子どもたちの挑戦はすべて本物への挑戦である。そして、子どもたちが8・9年生になる頃には、誰もが日本語でも英語でも土佐山のことを熱く語れるようになる。地域を広くPRし続けることにより、地域の活性化にもつながっていると思われる。今後は、地域が子どもたちのアイデアを地域のイベントとして継続できるよう、学校としてどのように関わっていけるかを考えていかなければならない。



# [宮崎県] にゅうた 新富町立新田小中学校（併設型） 新富町立新田小学校 新富町立新田中学校

## 1. 学校（区）概要

- 教育目標：夢や希望をもち 心豊かに とともに伸びゆく 新田の子どもの育成
- 所在地：宮崎県児湯郡新富町大字新田7717番地1
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数（R3.5.1時点）



	小学校								中学校					小・中 計
学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	35	32	39	41	40	36	14	236	27	38	29	5	99	335
学級数	1	1	2	2	1	1	3	11	1	1	1	1	4	15

## 2. 導入経緯

【検討開始のきっかけ】

将来的な児童生徒数の減少を見込み、町が小中一貫教育を核とした教育の推進にシフトしたため

【具体的な経緯】

- ・平成23年度 小中一貫校に関する保護者説明会
- ・平成24年度 「田園の里 新田学園」（新富町立新田小中学校）開校

## 3. 小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- 新富町の素晴らしい伝統・文化・教育資源を生かして、自ら学び、自ら考え、正しく判断し行動する力など「社会を生き抜く力」や人としての「確かな力」を育み、社会の変化に主体的に対応し、夢や希望を抱いて、郷土を愛し、社会に貢献する気概をもった子どもの育成を目指す。

### 施設活用（施設隣接・施設分離型の場合）

- 施設一体型のため、距離はなし

### 教職員体制

- 校長：1名配置
- 兼務発令の状況：全教職員

### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：特例はない
- 区切り：4-3-2制（Aステージ：1～4年 Bステージ：5～7年 Cステージ：8～9年）
- 学校行事等：小中合同入学式、小中合同体育大会など

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：第5学年から、音楽、家庭において実施
- 教員の相互乗り入れ：中学校教員が小学校の理科、音楽、体育、外国語活動、外国語に乗り入れ

### 児童生徒の異学年交流の工夫

- 日常的な縦割り清掃、児童生徒会活動、中学部生徒による小学部児童への読み聞かせ、いじめ防止に取り組む小中合同の組織「風の会」、小学部から中学部3年生への受験応援メッセージなど

### 市町村教育委員会等による支援

- ICT機器の環境設定及び導入段階の研修等

### その他

- 小中一本化されたPTA組織による活動



小学部校舎	中学部校舎
第1学年～第6学年	第7学年～第9学年
児童236人	生徒99人
教職員19人	教職員15人

## テーマ：小中一貫教育の利点をより享受するための「校務の情報化」

本校は、隣接する小学校と中学校でつくられた施設一体型の小中一貫校である。開校当時は、小・中学校それぞれの良さを生かしながら9年間を通じて児童生徒を育成することについて意識改革を行い、小・中学校それぞれの体制が一つに確立された。小中一貫校になり小中の校時程や行事等を揃え一つの学校としての体制を整えたものの、職員間の情報共有の場を設定することが難しく、子供たちの学習状況や生活の様子を丁寧に把握しにくいという課題があった。また、その課題を解決するために業務負担がより大きくなってしまったという課題もあった。

そこで、校務の情報化を進め、以下に記載したような取組を開始した。

「乗り入れ授業」の実施を通じたきめ細かい学習指導や、9年間を通じて児童生徒の成長と向き合えるといった小中一貫ならではのメリットを、校務の情報化を通じてより高められている。さらに、教員の業務負担を軽減できることから、喫緊の課題である「働き方改革」にも対応できている。

### ●校務支援システムを活用した取組

#### ●諸表簿機能の活用

諸表簿には、学籍や出席状況、成績等のように小学部・中学部別、学級別に整理したいものと連絡先や兄弟関係等のように小中を一括りとして整理したいものがある。校務支援システムの小中のデータのやり取りや行き来が自由に設定できる利点を生かして、下記の表簿について業務の効率化を図っている。

小中のデータを一括管理することで、乗り入れ授業等で小・中の区別なく必要な情報を得られるため、9年間を通じて児童生徒の状態が把握でき、児童生徒の成長とじっくり向き合うことが可能になっている。

また、年度替わりの各担任の事務作業等を軽減したりすることができると同時に、諸表簿のデジタルデータによる管理が可能になり、教員の業務負担の軽減につながっている。

- ・学籍、名簿等の管理（連絡先・兄弟姉妹関係等含）
- ・出席状況（健康観察含）
- ・成績処理（各種テスト・通知表・指導要録含）
- ・学校日誌・保健日誌
- ・出退勤時刻記録

#### ●連絡確認機能の活用

小学部は45分授業、中学部は50分授業であり、校時程に時間のズレが生じたり、別棟で行き来に時間がかかったりするため、休み時間等に小中の職員の確認や打合せが行いにくい。それを解消する手段として、校務支援システムの連絡掲示板機能や個人連絡機能を活用し、効率化を図っている。

これらの機能には、確認連絡の機能に加え、意思確認ができる機能もあり、5択までの確認が可能であるため、この機能を使えば、会を開かなくても意思確認をしながら業務を推進することができる。これらの機能を活用することで、連絡確認や会議の削減が可能になり、小中の関係職員がつながり合いながら、組織を機能させることにつながっている。

- ・連絡掲示板機能の活用
- ・個人連絡機能の活用
- ・配付文書の電子化



### ●共有サーバーを活用した取組

共有サーバー内に学部、校務分掌別のフォルダを作り、いつでも誰でも資料を保管・活用することができるようにしている。フォルダは次年度分まで準備されており、本年度完了した活動については、反省を踏まえて書き換えた文書を次年度フォルダに残すところまでを年度内に実施する業務としている。職員会ではペーパーレス化し、サーバーに保管されたフォルダ内の文書をもとに会議が進められる。

次年度の提案文書については、大きな見直しがない限りそのまま提案できるため、業務の効率化につながるとともにペーパーレス化で印刷時間の削減やコスト削減にもつながっている。

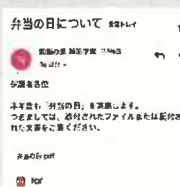
- ・文書や写真等の一括管理

### ●学校配信メールを活用した取組

これまで、学校からの文書はすべて紙媒体で配付していたが、令和3年度途中から、文書をPDFファイルでメールに添付して配付するようにした。これまで同様、紙媒体での配付を希望する家庭には紙での文書を配付し対応している。また、学校評価等のアンケートについてもWeb回答のシステムを導入した。

ペーパーレス化で印刷時間の削減コスト削減につながっていると同時に、文書配付時間の削減やアンケート配付・回収・集計等の業務の効率化を図ることにつながっている。

- ・学校文書のメール配信
- ・アンケート配付・回収・集計の電子化



## これまでの成果と課題、今後の取組

### ●成果

- ・諸表簿や文書を一括管理したことで、小・中の区別なく、必要な職員が自由に情報にアクセスできるとともに、担任が変わった後も情報を引き継ぎ、書き換えながら活用することができるようになり、業務の効率化を図ることができた。
- ・校務を情報化したことで、業務が効率化され子どもと向き合う時間を生み出すことができたとともに、時間とコスト削減にもつながり、業務改革を推進することができた。さらに、9年間を通じた教育ができるという小中一貫ならではのメリットをより享受できるようになった。

### ●課題

- ・校務の情報化が職員間のコミュニケーションの減少につながらないよう、日常的な対話や職員会等での意思疎通をより深めていく必要がある。

### ●今後の取組

- ・校務を情報化することで対応できる業務内容と情報化することが難しい業務内容を精選することで、必要な時間を必要な業務に充てることができるよう、選択と集中により更に効率的に業務を推進していく。